

職 場 体 験 学 習～イーハトーヴに働く大人に学ぶ～ (中学校総合的な学習の時間)

1 学びのねらい

「働くことの意義」について考える学習活動を通して、働くことの意義や働く人々の願い、地域のよさや課題を理解し、未来の自分の在り方や生き方についての考えを深め、今後の生活の中で活かそうとする。

2 プログラムの概要

テンパークにこのプログラムの利用を申し込むと、職場体験実施可能事業所のリストを利用することができます。リストにある事業所と学校が直接連絡を取り合い、職場体験学習をすることになります。テンパークのバスが空いていれば、バス利用が可能です。料金については、「利用の手引き」を参照してください。学習指導案やワークシート、未来の自分への手紙やそれを保管しておくタイムカプセルの用意があります。

3 人数・時間・場所

- (1) 人数 要相談
- (2) 対象 中学生
- (3) 期間 通年
- (4) 時間 各学校での設定時間
- (5) 場所 職場体験実施可能事業所リスト参照

4 指導について

各学校の計画に沿って、学習を進めます。

学習指導案を掲載していますので、参考にさせていただくことも可能です。

ワークシート等は、ホームページ上からご覧いただけます。

5 準備する物・・・基本的には、各学校の実施計画で必要な物を検討しご準備ください。

区 分	内 容
個 人	・腕時計 ・弁当（1日であれば） 事業所への質問用紙（しおり等） ・水筒など（水分補給用） ・タオル ・ワークシート ・筆記用具
交流の家	・職場体験実施可能事業所連絡一覧 ・ふり返しワークシート ・未来の自分に宛てた手紙（テンパークでタイムカプセルのように保管も可能）

6 引率者の役割分担・・・参考例

係 名	人 数	役 割
代表責任者	1 名	本部として責任者として、緊急時の連絡調整を行う。
学習・まとめ係	数名	総合的な学習の時間のねらいに則したワークシート作成やそれぞれのグループでの出会いの会や感謝の会の進行を行う。
巡回係	数名	事業所を巡回し挨拶や記録写真撮影にあたる。

7 プログラム利用の流れ

利用の流れ	内 容
利用申し込みをする	・テンパークに利用の申し込みをする。 ・日帰り（事業所リストのみの利用）か宿泊か。 ・テンパークのバスを利用したい場合、空き状況や料金（移動距離に応じて料金が発生します）を電話で確認する。 ・テンパークから事業所リスト（連絡先入り）をお送りします。
利用日以前	・事業所リスト（連絡先入り）を受け取ったら、学校と事業所が直接、連絡を取り合うことになります。 ・所バスを利用する場合、体験事業所の場所を踏まえ、乗降の場所やルートを考えます。 ・事前にテンパークに来所し、学校の指導計画について職員と情報共有したりバスのルートを検討したりすることで、学習をスムーズに進めることができます。
利用日当日	・計画に沿って職場体験学習の実施 ・宿泊での利用の場合、夜に学習の振り返りや共有ができます。 ・プログラム用の振り返りワークシートを利用される場合、人数分の印刷も可能です。 ・未来の自分にあてた手紙を書く場合の用紙の準備やタイムカプセルの利用も可能です。

8 実施上の留意点

- (1) 学校での事前指導を徹底してください。
- (2) それぞれの体験場所にふさわしい格好で活動をお願いします。
- (3) 各事業所への連絡（体験の依頼、体験内容、活動時間、持ち物等）は、各学校で行っていただくことになります。その際、「テンパークからの紹介」と話していただくことで話がスムーズにできます。
- (4) 職場体験実施可能事業所の一覧（連絡先）については、テンパークにお問い合わせください。

9 宿泊利用のモデルプラン

1泊2日 モデルプラン																					
1 日目	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22				
	職場体験受け入れ事業所等での体験 ※盛岡駅等に集合して岩手山の所バスで送迎 ※各学校で体験場所へ行く 等											送 迎	入 所	夕 食	入 浴	ふり かえり	就 寝				
2 日目	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22				
		起床・ 準備	朝 食	退 所 点 検	ふりかえり 発表会等			昼 食	退 所												
2泊3日 モデルプラン																					
1 日目	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22				
	盛岡市内自主研修等											移 動	入 所	夕 食	入 浴	事 前 学 習	就 寝				
2 日目	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22				
		起床・ 準備	朝 食	送 迎	職場体験			昼 食 ※	職場体験			送 迎	入 所	夕 食	入 浴	ふり かえり	就 寝				
3 日目	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22				
		起床・ 準備	朝 食	退 所 点 検	ふりかえり 発表会等			昼 食	退 所												

第2学年 総合的な学習の時間学習指導案

1. 単元名 「イーハトーヴに働く大人に学ぶ ～未来の君へ～」

○学習指導要領 総合的な学習の時間の内容とのかかわり

【第1 目標】

探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、よりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 探究的な学習の過程において、課題の解決に必要な知識及び技能を身に付け、課題に関わる概念を形成し、探究的な学習の良さを理解するようにする。
- (2) 実社会や実生活の中から問いを見だし、自分で課題を立て、情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができるようにする。
- (3) 探究的な学習に主体的・協働的に取り組むとともに、互いのよさを生かしながら、積極的に社会に参画しようとする態度を養う。

【第2 各学校において定める目標及び内容】

各学校においては、第1の目標を踏まえ、各学校の総合的な学習の時間の目標及び内容を定める。

○目標を実現するにふさわしい探究課題（例）

「働く大人の勤労観や願い、地域のよさや課題から自分の在り方や生き方について考える」

2. 単元の目標・評価規準

○「働くことの意義」について考える学習活動をとおして、働くことの意義や働く人々の願い、地域のよさや課題を理解し、未来の自分の在り方や生き方についての考えを深め、今後の生活の中で活かそうとする。

育成する資質・能力	目標（例）	評価規準（例）
知識及び技能	・働くことの意義や働く人々の思いについて考えを深め、自分の在り方や生き方について理解することができるようにする。 ・自分の住む地域と職場体験学習をする地域を比較し、地域のよさや課題を理解することができるようにする。 ・地域のよさや課題について、自らの在り方や生き方と関連付けて理解することができるようにする。	・働くことの意義や苦労、工夫、働く人々の思い、自分の住む地域のよさや課題について、職場体験学習前にワークシート「働くとは」に考えを書き出すことができる。 ・職場体験学習後に、自分たちが学習していることと将来の社会との関係、さらに、自分たちの住む地域のよさや課題について、自らの在り方や生き方と関連付けて理解し、ワークシート「はじめの一步」に考えをまとめることができる。

思考力・判断力・表現力等	・職場体験学習前の勤労観や職業観、地域のよさや課題を出し合い、対話的な学びから探究課題を設定することができるようにする。 ・事象を比較したり、関連付けたりして、課題解決に向けて考えることができるようにする。 ・職場体験学習での体験を通して得られた情報を整理・分析し、目的に応じて、まとめ・表現することができるようにする。	・職場体験学習の意味を理解し、将来の自分の生き方を考えるために価値ある課題を設定できる。 ・働いている人と自分の職業観や地域のよさや課題について比較して考えることができる。 ・収集した情報を整理したり分析したりして思考する中で、自らの変容を自覚することができる。
学びに向かう力・人間性等	・職場体験学習をする中で、自分を客観的に見つめ、自分らしさに気づき、発揮できるようにする。 ・異なる立場、異なる考え方をもつ相手を認め、理解しようとすることができるようにする。 ・地域や仕事に対する理解を深め、地元への愛着や誇りをもつことができるようにする。	・体験を通して学んだ、働く意義や働く人々の思い、地域のよさや課題から、自分の在り方や生き方についての考えを深めるようにしている。 ・仲間と協働しながら他者の考えを認め、自分自身の考えを深め、課題を解決しようとしている。 ・地域のよさや課題と自分との関わりを踏まえて、自己の将来の生き方について考えようとしている。

3. 単元構想

(1) 集団宿泊活動として学習することのよさ

職場体験学習は、実際に職場を訪れて働くことを体験したり、働く人たちと接したりすることで、働くことの意義や願いを理解し、進んで働こうとする意欲や態度などを育み、これからの自己の進路について考えようとする態度を育てることができる学習である。また、グローバル化の進展や技術革新等により、各企業においては、「働き方改革・外国人材の雇用・CSR(企業の社会的責任)・SDGs(持続可能な開発目標)」等の取り組みが行われている。子ども達が、それらの一端にふれ、自らの在り方や生き方を考える上での一つの要素とできることも、この職場体験学習をする価値がある。

中学校卒業後の進路について具体的に考え始めるこの時期、各学校では生徒が主体的に進路を選択・決定することができるように、職場体験学習を計画している。各学校の所在地によっては、体験場所の確保や職種も限定される。そこで、県庁所在地である盛岡市近郊であれば十分にその問題を解決できるよさがあると考え、集団宿泊場所に宿泊して体験できる職場リストを作成し、どこの地域から来ても体験場所を紹介することができるようにした。

また、本来であれば、自分の住んでいる地域での体験が一般的であり、自宅から体験場所へ行き、体験後は自宅に帰宅し、翌日に学校で振り返りを行うといった形態が取られる。しかし感覚的な情報(体験活動を行ったときの感覚、その時の思いなど)は時間の経過とともに薄れていくものである。こうした感覚的な情報は貴重なものであり、その後の課題解決に生かしたい情報である。したがって、時間をあまりおかずに、体験で獲得した情報を言語化して、対象として扱える形で蓄積する必要がある。集団宿泊場所を拠点に職場体験学習を行うことで、その日のうちに実感

を伴う言葉で振り返りを行い、生徒の思いや感覚、級友同士での学びの交流学びの深まりを言語化して蓄積することができる。

さらに、体験場所が自分達の住んでいる地域ではないことで、自分達の住む地域との共通点や相違点という視点から改めて、自分達の地域のよさや課題に気づき、自らの在り方や生き方と関連付けて考えることも期待できる。

総合的な学習の時間において育成を目指す「学びに向かう力・人間性等」は、「思考力・判断力・表現力等」にもまして、様々な学習活動を通して、時間をかけながらじっくりと養い育んでいくものと考えることができる。本単元は、まとめの段階で「未来の君へ」という題で未来の自分へ宛てた手紙を書く活動を行うことにしている。これは、職場体験学習で、体験を通して学んだ働く意義や働く大人の勤労観、願い、さらに、地域のよさや課題から自分の在り方や生き方についての考えを深めることができるように組み入れた学習活動である。未来の自分へ宛てて書いた手紙は、中学2年生の自分からの贈り物になるように、青少年教育施設で大切に保管され、何年か後の開封の時を待つことになる。未来の開封の時に、青少年教育施設に集い大人になった自分が中学2年生の自分と向き合い、さらには、集った同級生たちと交流する活動を通し、これからの未来へ続く人生の糧になることが期待できる。

(2) 単元計画（学習過程と活動内容等）の具体例

1泊2日の場合 28時間（学級活動等6時間 総合的な学習の時間22時間）

2泊3日の場合 33時間（学級活動等6時間 総合的な学習の時間27時間）

学習過程	活動内容（例）	扱い	時数	活動の場
課題の設定	○自分の適性や興味を知り、将来就きたい職業について自分の適性が合っているか考える。 ○産業や職業の分類、職業についての必要な適性を理解する。 ○産業の環境、職業同士のつながり、地域ならではの産業や地域のよさや課題について知る。	学級活動	3	学校
	○「働くこと」についてのイメージや意義、地域のよさや課題についての自分の考えを書き出す。（「働くとは」ワークシート） ○課題を設定する。（例） 「働く大人の勤労観や願い、地域のよさや課題から自分の在り方や生き方について考える」 ○職場体験学習の目的や課題を理解する。	総合的な学習の時間	3	学校
情報の収集	○課題解決のための質問を出し合い、対話的な学びで質問事項を選別していく。 ・働くことの意義や勤労観、願いに関すること。 ・地域のよさや課題に関すること。 ・グローバルな社会にどのように対応しているか。 ・時代に求められている喫緊の課題（働き方改革・外国人材の雇用・CSR（企業の社会的責）・SDGs（持続可能な開発目標）」等にどのように対応しているか。 ○どのように情報収集し、どのように蓄積するのかについて話し合う。	総合的な学習の時間	3	学校

	○希望する職場へのアポイントメント ○挨拶の練習 ○開閉会の流れの練習 ○自己紹介カードづくり	国語 学級活動 等 教科横断的に	3	学校
	○職場体験学習（課題解決を目指す体験学習） ・職場体験学習の目的を明確にもつ。 ・考えた質問をし、言語化した情報を得る。 ・職場体験学習をする中で感覚的な情報を得る。	総合的な 学習の時間	5～10	各体験 場所
整理・分析	○職場体験学習で収集した多様な情報を整理したり、分析したりする。 ・課題解決につながる気付きを付箋に書き出す ・思考ツールを用いて整理し、課題についてグループで分析する。 ○整理・分析したことを踏まえて、働く意義や願い、地域のよさや課題について、体験後の自分の考えをまとめる。（「働くとは」ワークシート） ○体験を踏まえ、将来の目標とする職業に近付くために、今から実践できることや、未来の自分に向かうために必要なことを明らかにしていく。（「はじめの一步」ワークシート） ・自らの日頃の行動の在り方 ・様々な立場の人と共に豊かに生きていく方法 ・自分自身にできることは何か ・地域のよさや課題、時代に求められている喫緊の課題に関わること	総合的な 学習の時間	3	青少年 教育施設
まとめ ・ 表現	○職場体験学習を通して学んだ働く意義や願い、地域のよさや課題から、地域と自分との関わりを踏まえて、自己の将来の生き方について考えようとする。（「未来の君へ」手紙）	総合的な 学習の時間	1	青少年 教育施設
	○職場体験学習の振り返り ○活動のまとめ（グループ） ・新聞やポスターセッション用の資料作り ○発表会 ○礼状作成	総合的な 学習の時間	7	学校

（３）「主体的・対話的で深い学び」の視点

１）主体的な学び

① 目指す生徒の姿

自分たちが学習していることと将来の社会との関係、さらに、自分たちの住む地域のよさや課題を見出し、自らの在り方や生き方と関連付けて考え、自己の将来の生き方について考える姿を目指す。

② 指導のポイント

「働くこと」についてのイメージや意義、働く人々の願い、地域のよさや課題についての自分の考えをもって、職場体験学習に臨み、学習後に自らの学びの成果や過程を振り返ることを通して、次の学びに主体的に取り組む態度を育む。

2) 対話的な学び

① 目指す生徒の姿

10年後には今ある仕事の約7割が消滅するといわれる中で求められるのは、他者と協働しながら課題の解決を図る力である。協働する他者が文化的背景を異にする場合も多く多様性を受容するだけでなく利害や価値観の対立を乗り越えて、皆が納得できる解決策を考える力が求められる。答えが一つではない問いに対して、解決を図るために、話し合う姿を目指す。

② 指導のポイント

多様な立場を受容し尊重するのみならず、合意形成できる解決策を作り出すことが対話的な学びには大切になる。体験する職場の選定や課題解決に有効な質問の選別、さらに、職場体験学習で収集した多様な情報を整理したり、分析したりする話し合いをする中で、対話によって解決しようとする態度を育てることを目指す。

3) 深い学び

① 目指す生徒の姿

キャリア発達には個人差があり、家庭環境などの条件も異なるため、一律に目標を設定することは難しい。自己の経験を振り返り、興味・関心の所在を把握することや「よさ・強み」を発見することで、前向きに将来について考えることができるようになる。自己理解を大切にしながら、探究的な学習経験を通して学びを人生や社会に生かそうとする姿を目指す。

② 指導のポイント

「働くこと」についてのイメージや意義、地域のよさや課題について、体験前に思い描いていたことと比較しながら振り返りをさせる。その上で、ワークシート「はじめの一步」の中で、未来の自分に向かうために必要なこととして、日頃の行動の在り方や様々な立場の人と共に豊かに生きていく方法、今の自分自身にできることは何か、地域のよさや課題・時代に求められている喫緊の課題に関わること等の視点を引き出し、明らかにしていく。また、手紙「未来の君へ」を書く中で、地域と自分との関わりを踏まえて、自己の将来の生き方について考えることができるようにしていく。

4. 青少年教育施設での展開【総合的な学習の時間 50分×4（時数4時間）】

(1) ねらい

働く大人の勤労観や願い、地域のよさや課題から自分の在り方や生き方を見つめるとともに、地域と自分との関わりから、自己の将来の生き方について考えることができる。

(2) 展開例

活動	具体的な活動内容	指導上の留意点	時間
整理 ・ 分析	1. 職場体験学習の想起 2. 職場体験学習で収集した多様な情報を整理したり、分析したりする。 ・課題解決につながる気付きを付箋に書き出す。 ・思考ツールを用いて整理し、課題についてグループで分析する。 3. 整理・分析したことを踏まえて働く意義や働く人々の願い、地域	・正解不正解はないので、思いついたことを多く書かせる。 ・事象を比較したり関連付けたりして、課題解決に向けて考えさせる。 ・グループで分析したことも踏まえて、「働くとは」ワークシートに職場体験学	50分 × 3

	のよさや課題について、体験後の自分の考えをまとめる。 （「働くとは」ワークシート） 4. 学習したことを踏まえ、未来の自分に向かうために必要なことを明らかにしていく。 （「はじめの一步」ワークシート）	習前に書いたことと比較しながら、職場体験学習後の欄に記入させる。 ・将来の目標とする職業に近付くために今から実践できることや、未来の自分に向かうために必要なことを記入させる。 ・未来の自分に向かうために必要なことの視点として、自らの日頃の行動の在り方、様々な立場の人と共に豊かに生きていく方法、自分自身にできることは何か地域のよさや課題・時代に求められている喫緊の課題に関わることなどを引き出していくようにする。 ・自分だけでなく家族の目につく場所（冷蔵庫等）に貼るようにさせる。 ※記入したワークシートに対して、保護者等がマイナスの発言はしないことが重要なので、励ましの言葉をかけるようお願いする。（三者面談等で）	
まとめ ・ 表現	5. 職場体験学習を通して学んだ働く意義や働く人々の願い、地域のよさや課題から、自分の在り方や生き方についての考えを深め、未来の自分へ手紙を書く。 （「未来の君へ」手紙） 6. テンパークに手紙を預ける。	・未来の自分へ向けて書くものなので、表面的な内容にならないように、書き上げたものは、教師が見たり点検したりしないようにする。 ・預けた手紙は成人式等学校が設定した期日で開封し、当時の自分の思いを感じ、その後の自分の人生の糧にするようにさせる。	50 分

（３）評価規準

- ・ 職場体験学習後にワークシート「はじめの一步」で、今、自分たちが学習していることと将来の社会との関係、さらに、自分たちの住む地域の課題やよさを見出し、自らの在り方や生き方と関連付けて理解することができる。（知識及び技能）
- ・ 働いている人と自分の職業観や地域のよさや課題について、比較して考えることができる。（思考力・判断力・表現力等）
- ・ 収集した情報を整理したり分析したりしながら思考する中で、自らの変容を自覚することができる。（思考力・判断力・表現力等）
- ・ 体験を通して学んだ、働く意義や働く人々の願い、地域のよさや課題から、自分の在り方や生き方についての考えを深めるようにしている。（学びに向かう力・人間性等）
- ・ 仲間と協働しながら他者の考えを認め、自分自身の考えを深め、課題を解決しようとしている。（学びに向かう力・人間性等）
- ・ 地域のよさや課題と自分との関わりを踏まえて、自己の将来の生き方について考えようとしている。（学びに向かう力・人間性等）